

外部評価意見への対応方針

番号	年月	外部評価意見	対応方針	分類
1	H30.6	H29運営方針の業績目標について、ハードルが高いものや低いものがあるのではないか。	翌年の運営方針素案へのご意見をいただく場において、区政会議の委員さんのご意見も頂戴しながら決めていきます。	②
2	H30.6	H29運営方針の具体的取組1-2-2(コミュニティの活性化)の業績目標「地域活動が行われていることを知っている区民の割合」について、行われているかどうかは知っているかもしれないが、行われている内容がどうなのかという評価にはなっていない。	地域行事が行われていることを知っているか否かではなく、活動内容についてどうかについては、主催者でアンケートをとるなどで確認いただき、今後の行事内容に反映された方がと考えています。よって、地域活動が行われていることを知っている区民の割合を業績目標としています。	⑤
3	H30.6	H29運営方針の具体的取組4-2-1(職員の意識改革、人材マネジメント)の業績目標「行政サービスの向上につながったと感じる職員の割合」は、区民の割合とするべきではないか。	平成29年度の運営方針では、行政サービスの向上のためには、職員自らが積極的に改革・改善を取り組んでいかなければならないものであることから、職員の意識改革は最重要課題と位置づけ、職員の割合を業績目標の設定をしていた。平成30年度からは市政改革プラン2.0に基づく取組等のさらなる区民サービスの向上の項目で、区民の割合を業績目標として設定しています。	①
4	H30.6	H29運営方針の戦略3-1(防災体制の再構築)について、H30.6.18に発生した地震の際に、地域によって避難所の開設状況のバラつきがあったが、その経緯も確認したうえで評価するべきではないか。	避難所は、全校下において1か所ずつ開設する前提で担当者を派遣し、避難したい方が来られた学校について開設したというのが経過になります。今回の避難所開設では、区役所内のみならず、学校・各地域・各関係団体との連携した取り組みや情報共有が不足していたと感じており、今後の教訓としてまいります。	①
5	H30.6	H29運営方針の戦略3-1(防災体制の再構築)について、H30.6.18に発生した地震の際に、避難所に住民が来なかったから良かったのではなく、どうして来なかったのか、本当は不安だったけど行けなかった方もいたのでは。防災リーダーも、出勤途中の電車の中に居て帰られなかった。今後どうしていくのか、役所だけでなく防災リーダーも一緒に考えていきたいと思う。	避難所の開設情報については、区民の方に周知する必要がある、そのやり方などについては、防災リーダーをはじめ地域の方のご協力が不可欠であることから、一緒に考えてまいります。	①

番号	年月	外部評価意見	対応方針	分類
6	H30.6	H29運営方針の戦略3-1(防災体制の再構築)の業績目標について、旭区が何ができるかというような項目が結構あるが、むしろ住民主体で何ができるのかが大切。住民が、あまりにも行政に頼っているのではないか。	大規模災害時には、多くの被害に対して区役所など「公助」での対応は限界があることから、地域における「自助」「共助」とH30運営方針のIV-1(1)にある「ご近助」精神によって、住民主体で地域の防災力を向上させる必要があることを、区役所としても積極的に啓発に努めてまいります。	①
7	H30.6	H29運営方針の戦略3-1(防災体制の再構築)の業績目標の実績について、どこからどこまで足を運んで実績を出したのか。本当の安全・安心は、大変な費用を使うことではなく、身近な方々に常に話し合っ顔見知りになって、声を掛け合っ、そういうことが大切と思う。	地域の防災力の向上などについては、日ごろからの「ご近助」の関係構築が大切であることについて、引き続き啓発に努めてまいります。	①
8	H30.6	H29運営方針の具体的取組2-2-3の業績目標「地域の状況や生活課題についての情報提供」の実績が0地域であることは、役所の問題でなく地域の側にも問題があるのかと思うが、もう少し詳しく説明してほしい。	区役所が主体となってNPO・区役所・包括支援センター等関係機関を一同に会合する場を設け、地域課題等を事例検討し、専門家の意見を伺い、より適切な方法を模索し、それを10地域に情報提供するという内容であったが、結果的に未実施であったため0地域となりました。平成30年度に仕切りなおして取りかかります。	①
9	H30.6	H29運営方針の具体的取組1-1-1(城北公園フェア)に関して、音楽などステージも年々充実し人も多く、お祭り要素満載で良いと思う。ただ、ビール、出店など大人中心がメインに出ている印象がある。小学生の孫を連れて行ったが遊ばせる所があまり無かったとの声も何人かの方からお聞きした。	「城北公園フェア」は、旭区の重要な地域資源である城北公園を活用し、飲食を中心としたイベントを開催することで、区内外からの集客を図り、地域魅力の向上につなげる事業として開催しています。お子様と一緒に楽しんでいただく趣向としては、しょうぶちゃんなどご当地キャラクターとのふれあいやファミリーステージでの「ファミリー体操」、メインステージでの「くまモンPRステージ」「アニソンステージ」に加えて、今回新たに大道芸ステージを設けるなど工夫されておりましたが、ご意見をいただいた点については、主催者である実行委員会にその趣旨を伝え、次年度の開催に向けて検討を働きかけてまいります。	②
10	H30.6	H29運営方針の具体的取組1-1-3(音楽等集客要素を取り入れた区内商店街との連携イベント)に関して、3月19日の旭区の文化を考えるシンポジウムを思いだし、旭区には連携できる“音楽”が“文化”がいろいろあると思った。ここを繋げて効果的に発信していくのが区の役割だと思う。	区内商店街の連携イベントは再構築し、事業を廃止したところですが、「音楽の祭日」や「旭ミュージックフェスタ」などの音楽イベントを旭区の文化魅力として、効果的に発信することについて検討してまいります。また、「旭区の文化を考えるシンポジウム」をきっかけとして、旭区内で文化に携わる団体が集う「(仮称)旭区文化団体協議会」を立ち上げる動きにつながっており、区役所としても積極的に立ち上げ支援を行ってまいります。	②

番号	年月	外部評価意見	対応方針	分類
11	H30.6	H29運営方針の具体的取組1-2-1(地域活動協議会の運営支援)において、各校下での地域課題は中にいて考えていることと外から客観的に見ると違いがあると思う。地域のいろいろなデータなどから“地域カルテ”(これは今年の資料に出ていて注目しているものです)を示されるととても参考になると期待している。	今後、地域カルテを活用したワークショップの開催等、地域ごとの課題を客観視し、解決に活かしていけるような運営支援を実施してまいります。	①
12	H30.7	ブランド認定について、ブランドを認定して地域を盛り上げていこうというのは非常に大切なことだと思う。積極的に区として推奨していくという、広報活動でより多くの市民に周知して盛り上げていくような風潮というのが大切ではないかと考える。	旭区では、新たな旭区ブランドを認定し、8月の区民まつりでお披露目し、広報あさひ9月号では特集号として、広く区民の皆様方に広報させていただきました。今後の旭区ブランドの広報につきましては、区政会議委員の皆様にもご参加いただいています「まち魅力推進会議」の委員の皆様方から、気運を盛り上げ興味を持ってもらえるようなリーフレットなどを作ればどうかと御意見を頂戴しているところです。	①
13	H30.7	城北公園フェア等のイベントの際に、区外から来られる方を受け入れるため、シャトルバスを出してはどうか。	城北公園フェアにつきましては、これまでの区役所主催から商業・産業界や地域の皆様にも企画段階から関わっていただく実行委員会による開催となりました。実行委員会におきましても、集客方法の一つとしてシャトルバスの活用についての議論も進めているところですが、運行費用の確保や運用面での課題が多いところです。実行委員会において、引き続き検討が必要と考えております。	③
14	H30.7	H30運営方針の戦略3-2に関して、地域の賑わいや活性化が進んだと感じる区民の割合が80%というのは高いのではないかと。上滑りする目標ではなく、地道に積みあがっていくような設定のほうがいいのではないかと。	平成28年度の区民モニターの結果は45.1%でしたが、29年度では、75.6%という結果になっております。本来ですと区民の皆さんに地域の活性化が進んでいると感じていただきたいところですが、平成30年度の目標は80%が適切と考えております。	①
15	H30.7	防災リーダーで、トランシーバーや発電機、大型粉末消火器を使った経験がない方が多い。実物を使用した訓練をしてほしい。	なるべく実物による使用訓練を進めていくべきと考えています。場所の選定や事前の周知など、周辺への影響を考慮した上で、できることから進めてまいります。	①

番号	年月	外部評価意見	対応方針	分類
16	H30.7	防災リーダーの高齢化が非常に進んでいる。もっと若返りをすすめていかないといけないと思う。	<p>防災リーダーの高齢化、世代交代につきましては、地域に関わらず共通の課題と考えております。</p> <p>地域の防災訓練への参加をきっかけにした地域の方のロコミなど、効率的ではないかもしれませんが、非常に大事かと考えております。</p> <p>若い世代の参加は、単に地域のためだけではなく、自らの子どもや家族を守る活動であることを理解いただいて、地域の方と一緒に若い世代の参加につなげていければと考えております。</p>	①
17	H30.7	防犯カメラ設置について、メンテナンスをどうしていくのか、そのまま朽ちさせていくのはもったいないと思う。	<p>大阪市全体でも、メンテナンスの件は複数の区から声があがっており、局も問題意識を持っていますが、大阪市の予算として、メンテナンスを計上するのは難しいというところから、実際には地域活動協議会の補助金から捻出する方法ぐらいしかないとお答えしています。</p>	②
18	H30.7	違法駐輪について、違法駐輪の多いところは、何度も徹底的に、なくなるまで撤去を続けるくらいの根気良さを撤去作業を続けることで減らしていけばと考える。	<p>亀井委員のご意見のとおり、徹底的に行いたいのですが、予算の許す範囲内になります。今後も継続していきたいと考えています。</p>	①
19	H30.7	災害時の避難の要支援者のサポーターになっており、町会で名簿は作っているが、具体的にどうするかということについては、凍結状態で、これから動くというように聞いている。特にこういう災害があったので、早急に対応する必要があると思う。	<p>具体化を進めていく必要があると考えております。</p> <p>なお、今回の地震では、民生委員の方などのご協力により、単身の高齢者などへの直接訪問などにより安否確認させていただきました。</p> <p>また、地域で自主的に見回り等安否確認いただいた地域もあるとのことですが、日頃からやり方など確認をしておくことで、いざという時により効果的に対応できると考えております。</p> <p>具体的な進め方につきましては、各地域でも特性とか違いもありますので、地域の方のご意見なども伺いながら、整理してまいります。</p>	①
20	H30.7	自転車のマナーの向上について、特に千林商店街には以前は交番があったので、抑止力があつたが、交番が移動し、「自転車を押しましょう」という看板はあるが、乗ったままの方が多く危ない。、徹底するまでは、たまに立っていただいて注意してもらおうとか働き掛けが必要だと思う。	<p>蒲委員のご意見は既に旭警察に伝えましたところ、旭警察へは、同様のご意見も寄せられているようです。</p> <p>千林商店街では、春・秋の交通安全運動期間以外に、毎月1回、旭警察署・商店会・旭区役所等の合同啓発は実施しているところです。また、旭警察独自で、指導・注意喚起も実施していると聞いています。</p>	①

番号	年月	外部評価意見	対応方針	分類
21	H30.7	大型消火器の訓練は、公園の地下の防水のタンクに突っ込んで、ちゃんと放水するかどうかもでやったほうがいいと思う。	訓練する場所にもよりますが、例えば学校では、敷地内に、ちょっとした池やプールなどが近くであれば、放水訓練を実施している地域もあります。 場所に応じてどこまでどのような訓練をすべきかは、地域の方や消防署と一緒に、事前に打ち合わせを重ねながら、より良い訓練にしていきたいと思います。	①
22	H30.7	初期消火の際、まちのあちこちにある消火栓を、自分たちがちゃんと使えるように訓練をしておいたほうが良いのではないかと。	緊急時の消火栓使用の可能性については、安全上、管理上の観点から、消防署と協議する必要があります。	⑤
23	H30.7	お金使わず住民にどういう形で避難訓練に出させていただくか、あるいはいろんな形で教育するかということソフト面に金を使っていたらいい。	地域の方が参加したくなる防災訓練となるよう、地域の方と一緒に訓練内容について検討・充実させていきたいと思います。	①
24	H30.7	若い人に防災リーダーに入ってもらいたいと思っているが、若い人は今回の災害時は会社へ行ってた。いざという時に役に立つように、もう一度白紙の状態を考えてみようとしている。年寄りとか若い人というより、いつ来るか分からない災害にどれだけのパーセントで対応できるかだと思ふ。	災害はいつ発生してもおかしくないの、いかなる条件でも柔軟に対応できる防災力をつけることができるよう、地域の方のご意見をいただきながら取り組みを進めていきたいと思います。	①
25	H30.7	避難所は小学校か中学校が多いと思うが、地震のときの避難所であって、河川の決壊のときの避難所には、旭区のほとんどのところがならないと思った。異常気象が最近特に起こっているから、淀川の決壊も無きにしもあらずということを感じ、避難所について考え直す必要がある。	学校の校舎は水害時避難ビルに指定されていますので、避難所で浸水がある場合は、垂直避難、校舎の3階以上へ上がっていただくということでの避難することができます。 なお、区内では市営住宅など公共施設を中心に水害時避難ビルを指定していますが、地域的に偏りがあり、まだまだ足りないと考えていますので、今後は民間施設と協議しながら、少しでも水害時避難ビルを増やしていけるよう協議を進めていきたいと思います。	①
26	H30.7	役所と防災リーダーがまずかみ合うように、また地域振興会や地活協でも月1会議されて、こんなときは役所はこう動きまますよということを、その地域の代表の方にもう少し明確に伝えていただけたらと思う。	区役所と地域の方との情報共有のあり方や、事前に整理できる対応方針のルール化など、今回の地震対応における課題について、区役所として対応策を検討していきたいと思います。	①

番号	年月	外部評価意見	対応方針	分類
27	H30.7	今回は、ほとんどの職員が出勤できたが、例えば阪神大震災のような時間に起きると、職員が来れないので、地域が自分たちで避難所を立ち上げたり自分たちでいろいろしないといけない。その境目の時間だと、役所がどういうガイドラインを引いてるか、まずは区役所の中で、職員の方が全員共通認識で持っているかどうかを再度確認して、その代表の方の会議のときにおろしていただきたい。	区役所と地域の方との情報共有のあり方や、事前に整理できる対応方針のルール化など、今回の地震対応における課題について、区役所として対応策を検討した上で、決まったルールなどについては、地域防災担当者合同連絡会などで周知してまいります。	①
28	H30.7	今回の地震のときに、学校の対応がまちまちであった。今後旭区として、例えば区長判断で、旭区は一本化しますというのか、それは15人の校長、園長に采配を任すから、旭区としては学校ごとに、災害の場合にとる対応はまちまちですということとかも発信しておけば、保護者も混乱しないと思う。	今回の地震で課題が浮き彫りになっておりますので、早急に地域や防災リーダーとも連携しながら、その課題を埋めていく必要があります。基本的には、教育委員会で対応を統一する方向でガイドラインを作成すると聞いています。ただ、実際に校長先生の裁量の範囲においては判断が分かれる可能性があると考えています。区役所で各学校の状況が逐一分かりませんので、一律休校の判断などは難しいと考えています。	⑤
29	H30.7	災害に対しては、行政に全て任せて自己責任の意識が希薄である。避難所開設はまさに、地域住民の必須の役割である。ただし、自主的に運営するまでに行政のサポートがあるのはありがたい。行政の役割と住民の役割を明文化し、地域住民が自主的に自立できるような教育・サポートが重要となる。	避難所の開設・運営には、地域の方のご協力が不可欠であることなどについて、区民の方への啓発に今後より一層取り組む必要があると考えています。	①
30	H30.7	自治会組織の活性化に取り組んでほしい。防災に関してだけでなく広く住民の生の声を聞き、行政と地域住民の双方向のコミュニケーションで大きく変革できると確信する。	三木委員のご意見のとおり、行政と地域住民の双方向のコミュニケーションは大切と賛同いたします。しかしながら、自治会組織は任意団体であり、役所は介入できませんが、自治会組織の相談に応じるなど日々、対応しているところです。今後も継続してまいりたいと考えています。	⑤

番号	年月	外部評価意見	対応方針	分類
31	H30.7	子育て支援については、区役所は出産したときから把握しているので、出産から絶え間ない個々への積極的なアプローチに力を入れてもらいたい。	妊娠した(母子手帳をもらいに来られた)ときから、区役所との関係は始まります。その時に保健師が全員と面談を行い、妊婦さんを支援しています。妊娠期後期には妊婦教室を開き、全員に対して後日電話によるアプローチも行っています。出産時検診や、出産後は助産師あるいは保健師が全員訪問し、アプローチ・フォローを行っています。1歳半検診・3歳児検診の際にもフォローを行っています。そのほか、子育てサロンなどの場にも保育士が出向き、相談に乗るなどの支援を行っています。	①
32	H30.7	「おさらい教室」について、小学校と連携することで、より踏み込んだ能力アップにつながるのではないかと思います。利用者数の変化も出してほしい。利用者が増えることで必要な子が来るようになるのではないかと考える。	学校で教材やプリントを準備したり、参加して欲しい児童・保護者に声掛けをするなどの連携をして活用していただいています。今後は、登録児童数と参加児童数をお示します。	②
33	H30.7	H30運営方針の戦略2-1(暮らしを守る福祉等の向上)で、今のままだと人数が伸び悩むのではないかと。百歳体操だと、中心となる人がいて、ビデオか何かがないとできないし、これから伸びていくという要素は少ないのではないかと。旭区独特の課題はないのか。	旭区内では、平成30年6月現在で31箇所の会場で100歳体操が開催されています。会場によっては、広さの問題などで新規の方の参加ができないところもあり、より多くの方に参加していただくために実施する会場が増えていくことが望まれます。区役所としても、100歳体操のPRに力を入れるとともに、ビデオの貸し出しや運営上の相談に応じるなど新規開設を支援していきたいと考えています。	①
34	H30.7	親の意識が薄いのか、実際に「おさらい教室」などに来られている子どもは、別に必要ないのではという方が利用されている。本来利用した方が良いのではという子どもは利用していないのが現状ではと思う。親御さんのほうに学校として踏み込んでほしいと思う。	学校はかなり考えているが、強制ではないので行ってくれないというのが悩みと聞いています。学校が主体的に考え、区役所がサポートするという連携が取れていると思っていますが、まだまだ考えなければならぬところがあると思っています。	①
35	H30.7	H30運営方針の経営課題2について、年々充実しているとは思いますが、広報不足なのか意識不足なのか、区民センターや区役所など区全体の催し物はすごくあるが、百歳体操など、ご年配の方が行きやすい環境をつくってあげたいと思う。	出前講座というのがあり、保健師の要請があれば行かせていただいています。先日がんについての講座を保健師が行い、100人くらい来ていただきました。地域に行って活動できればと考えています。	①

番号	年月	外部評価意見	対応方針	分類
36	H30.7	H30運営方針の各戦略のめざす状態が、「現状満足していますか」と「昨年度と比較してどう感じますか」という2種類ある。今この資料で31年度を考えるのはそれで良いが、32年度以降を考えようと思ったら、31年度の目標の時に、今地域ごとに見たらどうかとか、いろんな意見があったが、そういう目標の設定の仕方を考えたほうが良いと思う。	H31運営方針策定に向け、具体的内容について区政会議にてご意見をいただきながら、策定していきます。	②
37	H30.7	塾代補助のことをお母さんに言っても、子どもが嫌と言ったら、お母さんのあきらめが早い。もう少し突っ込んで勉強させようという気持ちがないように思う。	平成29年度から、「旭塾」という名前で塾代助成の1万円でやっていただける塾を、場所貸しをして民間の事業者によってもらっています。ぜひお勧めしてください。	①
38	H30.7	目標が、随分高いという印象がある。例年少しずつ上げてきているということだろうが、本当にできるのか心配である。こういう目標値の設定は、昨年度・一昨年度のアンケート結果による数値というのは正確かなという疑問を持つ。	H31運営方針策定に向け、具体的内容について区政会議にてご意見をいただきながら、策定していきます。	②
39	H30.7	百歳体操について、新しく仲間に入れられないという現状があるという話を聞いており、そういう枠組みやしがらみのないものにしてもらいたい。また、百歳体操を知らない人がいっぱいいるので、区の広報とかでアピールしてもらいたい。	会場によっては、広さの問題などで新規の方の参加ができないグループもあります。より多くの方に参加していただくため、区役所としても、実施する会場を増やしていくよう、新規開設を支援していくとともに、グループに対し、新規の方の受け入れが進むよう、開催回数を増やしてもらうなどの働きかけも行っていきます。また、広報紙などで100歳体操をPRしていきます。	①
40	H30.7	区役所が小学校7時限目を担当し、学校と協力して授業の中のひとつとして入っていったらと思う。	「おさらい教室」は、放課後の時間帯に空き教室等を活用した自主学習支援を目的としており、学校と連携を図って実施しています。	④
41	H30.7	PTAとしては、先日の地震で、学校の外壁の補修費用の支援窓口があれば助かると思った。	学校施設の被害状況については、教育委員会事務局で集約し、予算確保します。	①

番号	年月	外部評価意見	対応方針	分類
42	H30.7	東京のある区で在宅医療がだいぶん推進され、家族も喜んでいるというのをテレビで見た。旭区でできないものか。	平成29年度より、旭区医師会を中心とした区内の医療、介護に携わる各種団体や連絡会、病院や施設で実際に業務をされている方々により医療と介護の連携を図るため、「旭区在宅医療・介護連携推進会議」を開催し、旭区内では今までなかった、医療従事者と介護従事者の顔の見える関係ができ始めてきており、地域包括ケアシステムの構築に向けて取り組んでいきます。	①
43	H30.7	目標値が、がくっと上がってきたから次も上げるというのは、安易な設定である。旭区の特徴は何か、旭区だからこういうことができたんだというのを出示してもらいたい。子育ては本当に充実してきているのに、なぜこういう問題が出てくるのかということを考えないといけない。	旭区は、医師会・歯科医師会・薬剤師会のネットワークがあり、区政に対しても多大なご協力をいただいています。子育て支援にかかわる機関等で構成する「あさひ子育て安心ネットワーク」にも参画していただき、児童虐待などの課題を解決するためのご協力もいただいています。今後は、安心ネットワークの網の目を細かくするために一層のご協力をお願いしたいと考えています。また、目標値の設定については、例えば、安心ネットワークのツールとして使用している「キッズカード」の利用率で評価するなどの手法を検討しています。	②
44	H30.7	医師会には、高齢者の施策は山ほどきているが、子どもに関しては全く何も来ていない。旭区は、医師会・歯科医師会・薬剤師会のネットワークがあって、関わりたいという人がいる。その人たちをきちっと出して実績として入れてもらったほうがいいと思う。そういう意味で、目標値がちょっと安易である。		
45	H30.7	在宅医療が充実するような取組を旭区から始めてほしい。	平成29年度より、旭区医師会を中心とした区内の医療、介護に携わる各種団体や連絡会、病院や施設で実際に業務をされている方々により医療と介護の連携を図るため、「旭区在宅医療・介護連携推進会議」を開催し、旭区内では今までなかった、医療従事者と介護従事者の顔の見える関係ができ始めてきており、地域包括ケアシステムの構築に向けて取り組んでいきます。	①
46	H30.7	役所の方々が、何事かの時、足を運んで生の状態を把握し、声を聞いて目で見て対策を講じる。インターネットでの一部のアンケートだけでパーセントを出すのはやめてほしい。楽な取組となっている。	評価指標につきましては、H31運営方針策定に向け、具体的内容について区政会議にてご意見をいただきながら、策定していきます。なお、区民アンケートにつきましては、インターネットではなく郵送で実施しています。	②

※分類

- ①当年度(30年度)において対応 ②31年度運営方針に反映または31年度に対応予定
 ③31年度では対応できないが、今後引き続き検討 ④対応困難または対応不可
 ⑤その他